

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年4月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675200192
法人名	有限会社 福寿
事業所名	グループホーム 小山田の里
所在地	鹿児島県始良市加治木町小山田1419番地1 (電話) 0995-62-7800
自己評価作成日	令和3年3月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

竜門校区にコミュニティができ、その一員として迎え入れていただいております。高齢化が進み同時に独居の世帯が増えている小山田地区ですが地域内の住民の方々はボランティア精神があり地域行事への積極的な参加も盛んです。グループホームへの訪問や地域行事へのお誘いも多く交流が図りやすい地域です。

少子化が進み竜門小学校の存続を地域住民の共通の目標とすることで、児童、高齢者が生活しやすい地域づくりを目指し、働く世代である子育て世代の家族の迎え入れに力をいれています。また、まちづくりプランの計画推進にむけて、様々な関係機関との連携も充実しておりそれぞれが資源であるという同一の考えのもと、コミュニティと協力連携で地域との良い関係づくりを図らせていただいております。

事業所内では認知症をテーマにした勉強会を定期的に行うことで、専門職として必要な知識や技術を高められるよう共に頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は緑豊かな広い敷地内にあり、2階建ての2階に1ユニットと別棟の平屋建てに1ユニットがある。敷地内には菜園があり利用者と一緒に花や野菜を作り、収穫を楽しんだり、四季を感じながら活動している。
- ・コロナ禍で地域交流は減少しているが、2階建ての1階で月4回サロンを開催し2時間程度少人数で運動と筋肉トレーニングを実施する等、地域住民と交流している。認知症サポーター養成講座を定期的で開催したり、実践者研修の講師としても貢献している。
- ・コロナ禍で面会制限や外出支援が減少する中、事業所内でレクリエーションを工夫しクリスマス会では職員も利用者も交代でジェスチャーゲームで楽しんだりしている。
- ・職員は利用者とコミュニケーションを図る中で、常に快適に過ごしてもらうに為にどうしたらいいのか考え、また、表情の変化があれば、職員会議で意見交換するなど利用者に合わせて介護を心がけている。
- ・毎月の勉強会で自己研鑽する場が有りサービス向上に活かせるようにしている。
- ・代表や管理者は職員の意見や提案を取り入れ、備品の購入や問題解決を図り、働きやすい環境作りをしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼の場で理念を復唱。利用者様の様子や状態を確認し安心してもらえる環境を共有し支援を行っている。	理念は玄関に掲示に、パンフレットに掲載している。合同の朝の申し送りに理念を唱和・共有し利用者の状態を確認して実践している。必要時、時々振り返りの勉強会もしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との関わりを極力控えている状況。県の動向をみながら地域との関わりを図っていく。	自治会に加入し回覧板もある。コロナ禍で地域との関わりを自粛しているが、美化作業の参加をしている。事業所主体で月4回サロンを開催し運動や筋肉トレーニングを実施し地域住民と交流している。利用者家族や住民からの差し入れや散歩時の挨拶交流はある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍により地域との関わりは極力控えている状況。終息の兆しが見られる際は、小学校の体験学習、高校生・専門学校の実習受け入れなども検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症に伴い文書にて運営状況や行事・催し等について報告している。	2ヶ月毎に運営推進会議を書面で開催している。運営状況や入居者の状況、行事や催し物、インシデント・アクシデント等を文書で報告している。行政には直接手渡し、意見はサービス向上に活かせるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の報告書にて現状報告を行っている。総合事業を通して包括支援センターへの情報提供を行っている。</p>	<p>市担当者とは直接出向き、書類提出や運営推進会議の議事録でホームの活動を説明したり、困難事例の相談、サポーター養成講座への協力等、日頃から連携を図っている。生活保護担当者とも報告や情報提供している。市主催の研修会はオンラインで参加し、市依頼の研修には講師として参加する等、協力関係を構築している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の無いケアを全職員意識して取り組んでいる。定期的に身体拘束廃止委員会を開催。身体拘束防止について職員が理解できるように勉強会を行っている。</p>	<p>マニュアルがあり、3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。職員会議で身体拘束についての自己チェックやスピーチロックについて等、勉強会を実施し回覧板で全職員が共有し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関施錠はせず利用者の外出ルートを把握し、近隣住民の協力を得ながら、声かけと一緒に散歩する等の対応をしている。赤外線センサー使用の場合は家族の同意を得ている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりを尊重しサービス提供に取り組んでいる。職員間で互いに意識し合い、虐待防止に努めている。また、勉強会を通して知識向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護について社内勉強会を行い、家族様の要望にアドバイスできるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>事前訪問・入居時に本人・家族に重要事項の説明を行なうと同時に、質問事項等を受けて説明を行なっている。 また、報酬改定の際は十分に理解していただいた上で契約を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ禍に伴い面会制限や出入りが困難な状況下にある為、家族様からのご意見は減ってきている状況にある。箱の設置はしているが活かしてきれていない。出された意見については職員会議等を通して職員には周知を行っている。</p>	<p>利用者からは日頃の会話の中で意見を聞き、家族からは電話や面会・電話等で意見や要望を聞く機会を設けている。1~2ヶ月毎に「小山田の里便り」で生活状況や写真を送付し、そのことから思いを聞き運営に活かしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>常日頃より朝礼時や会議以外で自由に意見や提案ができるように役職者が話しを聞く場がある。また、職員間で共有が必要とされる場合はミーティングや職員会議で発言する機会がある。</p>	<p>毎月1回のミーティングや職員会議・朝礼時などの日々の関わりの中でも自由に意見や提案が言える環境作りをしている。介護負担軽減のためのスライディングボードやリフトなど備品購入で働きやすい環境を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>キャリアパス要件に着目して就業条件も改善されてきている。事業所の目指すものが明確化され、仕事への意欲も向上してきている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考課を行い個々の能力を把握し、不足している点を職場内研修にて積極的に案内や参加を呼びかけている。参加できなかった方でも知識・技術が還元できるように取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍により同業者との関わりは行えていないが、電話連絡にて困難事例などのやり取りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中で本人様のペースに合わせた生活パターンを汲取る。ホールへなるべく来てもらい他者との交流の機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に家族への声掛けを行い、不安や困りごとを受け止め、希望・要望に対応できるように努力している。また、何かあったときだけでなく普段の面会時にご家族様の顔を見たら声をかけ、近況等を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、ご本人やご家族様にとって最優先解決課題を大切に心がけている。また、今後の生活スタイルの思いやその人らしさを視野に入れて、他のサービス利用の検討を含め話し合いを進めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が間に入ることにより、コミュニケーションをとりながら、利用者様自身の存在意義を認め保てるような関係づくりを努めており必ず最後に感謝とねぎらいの言葉かけを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は家族と可能な限り連携を取りあい、本人の思いを汲み取り、家族様との架け橋になれるように関係づくりを意識している。遠方の家族様には電話・一筆箋・SNSを活用し細かく対応できるように取り組んでいる。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナウイルス感染対策にて外出は控えている。また、面会制限も行っているため家族様や馴染みの人とは窓越しの面会や電話・手紙で関係性を保っている。</p>	<p>コロナ禍の為、窓越し面会や電話の取り次ぎ、手紙の支援をしている。県外家族とはラインビデオ通話やラインの動画を使って関係性が途切れない支援に努めている。個別で墓参りやコロナ感染者減少時に買い物支援し訪問理美容で対応している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の交流の機会もあり、お互いに自由に交流できるようになっている。個々に合わせた働きかけを模索しながら対応している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>コロナ禍により退居後の面会は行えていない。電話連絡にて情報提供を行っている。退居後の再利用を受け入れて、いつでも相談等受け入れる体制をとり、家族と連絡も取り合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り利用者の希望・要望に沿えられるよう内容の把握に努めている。職員間でも気付いたことは共有し意向に沿った暮らしに近づけるよう支援している。	日常の会話や入浴時・お茶やウッドデッキで寛いでいる時等に思いや意向の把握に努めている。困難な場合は入居者同士の情報や表情・仕草から思いを察知し対応した、ケース記録から職員間の意見・家族に相談し本人中心に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活暦やライフスタイルをお聞きし、今後の希望・要望を聞き取り入居者の方々の支援を行うように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、排泄状況、水分量等を把握し状態の変化や気付いたことがあれば申し送るようにしている。また、ケア会議にて支援内容の方向性を再検討しながら支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を行い支援についての検討をしている。看護師による助言も受けている。ご家族様の思いを聞き、ご本人・ご家族の意向や要望を取入れケアプランに反映できるようにしている。	本人や家族の意見や要望、毎月ケア会議での意見、定期受診時の主治医や看護師の意見を総合的にアセスメントし介護計画を作成し、担当者会議で方向性を確認している。モニタリングを2ヶ月毎に実施し3ヶ月で見直し、状況変化時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・個別のケース記録に記録している。特に重要になる申し送りの共有としては伝達ノート・報告ノートを使用している。伝達ノートは気づきを各職員が自由に記入し、職員それぞれが確認したら必ずサインするようにし、情報共有の抜け防止に心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナ禍により利用者様本人が買物に行けていないのが現状にあるが、本人の買いたい物などあれば代理で買物に行っている。		
29		○地域資源との協働 地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民・行政・民生員・ボランティア・消防・教育機関等の協力を頂きながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や往診の記録を行い、情報の共有を口頭でも職員間で行っている。他科受診の必要性が生じた場合は受診を行っている。	本人や家族の希望を大切に、入所前からのかかりつけ医や医療機関と関係を築きながら、月1回の職員同伴の受診や月2回の往診で健康管理している。歯科から週1回の訪問診療や必要時は往診で対応し、他科受診も職員が同行し電話または家族の来訪時に報告している。日々職員の看護師が主治医と連携し、緊急時は往診で対応し、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携や看取りに対応できる看護職員がいる。体調不良時や急変時には看護師が24時間電話連絡を受けられるようになっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には情報提供書を提出し、環境の変化にも不安なく安心できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族様には事業所で対応できる利用者の状態を説明し、看取りに入る際の手順や重度化した際の対応方法などの報告を行っている。</p> <p>日頃の体調や変化に敏感に気づけるよう努力し、家族様と看取りについて個別に話し合い方針が共有できるよう今後も取り組んで行く。</p>	<p>入居契約時にマニュアルに基づいて説明し、同意書を得ている。重度化した場合、事業所看護師やケアマネージャー同席のもと、主治医から説明があり、家族の意思確認を行い、医療機関への転移もあるが、方針を共有し支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員が事業所のマニュアルに沿って対応できるよう読み直しを行い、急変や事故発生時のマニュアルに沿って対応できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防隊員の立ち会いのもと訓練を実施している。コロナ禍により地域との合同訓練は行えていない。コロナウイルス感染症終息の兆しが見られた際は地域の方と消防訓練に参加していただき地域との共存共栄を図っていく。</p>	<p>マニュアルがあり年2回避難訓練を実施している。1回は消防隊員の立会いのもと通報、初期消火、避難訓練を実施している。土砂災害について危機管理課と合同で実施を検討している。代表は地域の消防団に入っている。住民参加型の訓練で協力体制を図っていく。備蓄は米・水・缶詰・乾麺等、3日以上と冷凍食品も2日分準備している。カセットコンロ・懐中電灯・ヘルメットを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様一人ひとりに対して状況に合わせた声かけを行い、丁寧語を基本とし時折方言を使って親近感が持てるように取り組んでいる。また、居室やトイレの戸を利用者様の心身の状況に合わせて対応方法などの対策を行っている。個人情報の守秘義務にも努めている。</p>	<p>研修会でマニュアルの読み合わせを行ったり、尊厳や接遇について年3~4回研修を実施している。入室時はノックし、入浴や排泄誘導時は羞恥心に配慮し、状況に応じて、個別の特性に応じた対応をしている。呼称は本人や家族の希望に応じて声かけしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人様が意思表示されたら声かけなどにより傾聴するように努めている。また、本人様が選択出来るような言葉かけを行っている。本人様には短く伝えゆっくりと話すように努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様の趣向を把握し、本人様に決定してもらえるように選択肢を広げている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>意思表示の困難である方は、家族の了解を得ておしゃれなどの支援は行っている。身だしなみは常に清潔を保てるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>家族様が持ってこられたお菓子・野菜・米など、本人様へお伝えし提供している。</p> <p>利用者様の嚥下の状況に合わせて食事の提供を行っている。</p> <p>野菜のカットや盛り付け、食器洗いなど、一緒にできる事を取り組んでいる。</p>	<p>宅配業者による食材調達とメニューを好みや差し入れの食材も追加して、職員が其々の嚥下機能に応じた食形態で提供している。</p> <p>季節行事食、誕生日には全員でケーキで祝い、敬老の日にはお祝い食、おせちは手作りで提供し食事が楽しみなものになるよう工夫している。</p> <p>利用者の力を活かしながら野菜のカットや食器洗い等一緒にしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量は毎食チェックを行うようにしている。</p> <p>厳密なカロリー計算はされていないが、おおむねバランスの取れたものになっている。</p> <p>水分摂取は変化を付けて本人様へ聞き好みに合った水分を提供できるように努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、利用者の能力に応じて、声かけ・一部介助・全介助にて実施されている。</p> <p>必要に応じて、協力歯科医師の訪問診療の際、指導・助言いただき支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限り排泄はトイレで行っている。 個々の排泄パターンや声かけにより排泄失敗の頻度を減らせるように取り組んでいる。 排泄の訴えがある際は、その都度対応を行なっている。	日中トイレ排泄を目標に排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、行動特性に応じて羞恥心に配慮した声掛けで、トイレ誘導し排泄支援している。 排泄用品はリハビリパンツとパットが主であるが時間帯や量に応じて使い分けている。排泄失敗が減りパットの使用量が減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄困難な方にはトイレでの腹部マッサージ、軽体操や運動、散歩を取入れ便秘の予防に努めている。トイレでの排泄を促すようなトイレ誘導を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴機器を導入しており全員が浴槽につかれるようにしている。 湯の温度は個人差もあるが40℃前後で対応を行っている。また、入浴剤を使用しリラクゼーションを図っている。	基本的に週2回の午前中に、リフト導入により全員浴槽での入浴支援している。また、入浴剤を使用しリラクゼーションを図っている。清拭や冬季のみ足浴も実施している。現在、入浴拒否もなく、スムーズに入浴支援できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思表示が難しい利用者様に関しては、夜間の睡眠状態やその時の本人様の体調を考慮し、居室で休んでいただくなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要時、主治医との連携をとっている。誤薬防止のために本人や職員間との確認を行っている。伝達ノート等を使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に合った役割やレクリエーションを提供し本人に決定できるような支援を行っている。参加しやすい雰囲気作りに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルス感染症により混雑している場所への外出は行っていない。県・市の感染状況をみながら外出する機会を設けている。 施設内でも楽しめるように催しを行ったり、テラスで食事を食べたりと取り組んでいる。	コロナ禍により、外出支援は減少している。天気の良い日にウッドデッキで日光浴や外気浴をしたり、敷地内での花見や菜園で苗植えから収穫までを楽しんでいる。川沿いの散歩、個別のドライブや希望者数人でドライブをする等、外出支援している。定期的受診で外出の機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により外出等の支援は行っていないが、本人様の希望や必要物品などを取入れ職員間で共有し購入を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	葉書や手紙等は本人様へ代読等行っている。お礼の電話などは本人様の言葉で伝えてもらうような支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気洗浄機や加湿器等を設置して過ごしやすい環境作りをしている。季節を感じられるように、時季に応じた花を生けたり、過ごせやすいように空調の設定を行ったりしている。	ホールには空気清浄機や加湿器を設置し、時間毎に換気・温湿度計が有りエアコンで過ごしやすい環境作りをしている。壁には桜の花の絵画や塗り絵等が掲示されている。テレビやラジオ・ラジオ等もあり、音楽をかけソファで過ごしたり、ウッドデッキに椅子を持ち込み季節の花を眺めて、それぞれが自由に居心地よく過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でのお一人ずつの居場所はほとんど決まっている。ただ、重度化により入居者同士の個別な交流は難しく、気の合う入居者様同士は席を隣同士にするなど気を付けている。トラブル回避の為に席替えなども行っている。また、利用者様の意向に沿って自室で過ごされたりなど、自由に居場所の確保できるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に今まで使用されていた使い慣れ親しんだ家具・生活用品・装飾品等の持込を呼びかけしている。家族様からのプレゼントは本人様から見える位置に飾り付けを行い、いつでも見えるように喜んでいただけるようにしている。</p>	<p>和室や洋室がある。居室には電動ベット・クローゼット・エアコンが設置されている。寝具類は・仏壇・位牌・遺影・ぬいぐるみ等がある。家族写真・孫や自分の作品・プレゼントのドライフラワーが飾られ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>浴槽・トイレ・廊下には手摺りが取り付けられている。居室入り口には個別の表札を取り付け見て分るようにしている。トイレはどこからでも見えるよう表示をしてあり、間違いや混乱しにくいように気を付けている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない